

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No204

新著の紹介(コーナー)

ディプロマポリシーから分析する公共政策学教育の現状

村上 紗央里先生 (同志社大学人文科学研究所 嘱託研究員)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】 1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



村上 紗央里

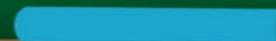
むらかみ さおり

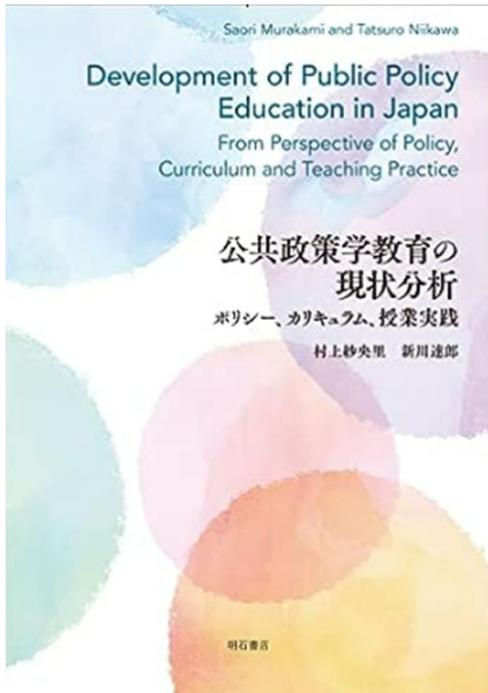
同志社大学人文科学研究所 嘱託研究員

同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程修了、博士（政策科学）。ポートランド州立大学グローバルフェロー。専門は公共政策学教育、コミュニティ・ベースド・ラーニング（CBL）、環境教育等

レイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」の感性を現代社会に適したかたちで伝えたいという思いから研究を開始。共編著に『レイチェル・カーソンに学ぶ現代環境論』（法律文化社, 2017）。

現在は、公共政策学教育の研究とポートランド州立大学のCBLと日本向け人材育成プログラム（JaLoGoMaプログラム）、ポートランド市におけるDEIのまちづくりについて研究しています。





村上紗央里・新川達郎『公共政策学教育の現状分析—ポリシー、カリキュラム、授業実践』明石書店（2023年3月）

- 第1章 学士課程教育における公共政策学教育の背景
- 第2章 公共政策系学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく共通構造
- 第3章 公共政策系学部のカリキュラム—京都市の公共政策系学部3大学を事例に—
- 第4章 公共政策学教育と初年次教育
- 第5章 公共政策学教育における実践型科目としてのPBL
- 第6章 公共政策学教育の資格教育プログラム—地域公共政策士プログラム—
- 第7章 公共政策学教育とは何か
- 第8章 研究の総括と今後の展望

それではご覧ください

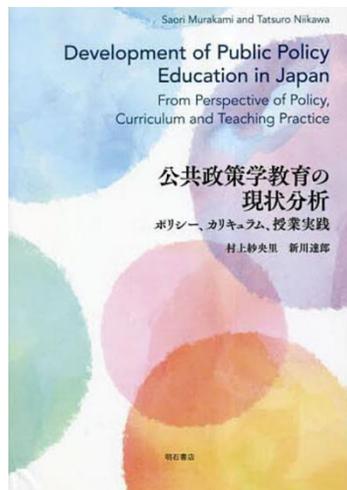
2023年8月〇日
題目

公共政策学教育の現状分析 ーポリシー、カリキュラム、授業実践ー

同志社大学人文科学研究所
嘱託研究員 村上 紗央里

村上 紗央里

Murakami Saori



学位：
博士（政策科学）

所属等：
同志社大学人文科学研究so嘱託研究員
ポートランド州立大学グローバルフェロー

専門：
公共政策学教育、シティズンシップ教育、
環境教育

研究テーマ：
公共政策学教育の体系的研究
ポートランド州立大学の地域連携教育（CBL）
ポートランド市における地域づくり

0 1

はじめに

本報告の概要

1. 本書の問題意識と目的
2. 本書の内容
3. 本書の意義

本書の研究の問題意識

- 18歳選挙の始まりと高等学校における「公共」の科目化、シティズンシップ教育の重要性が高まる。
- 政策学部での授業実践（嘉田・新川・村上 2017）から公共政策学教育とは何か。



先行して大学において進められてきた公共政策学教育の実態を明らかにすることが手がかりとなるのではないか。

本書の目的

- 本書の研究では、学士課程教育における公共政策学教育の実質化に向けて、その現状と課題を体系的に明らかにすること。

研究の背景：公共政策学教育を取り巻く背景

• 学士課程教育における公共政策学教育のこれまで

- 1990年代より学部設置が始まる。
- 現場型のPBLを特徴とし、学部設置が進む。
- 学部、学科、専攻、コース等、さまざまな単位で広がる。
- 2015年日本公共政策学会により、「学士課程教育における公共政策学分野の参照基準」が策定される。

• 大学教育の質保証

- 国際的な質保証の潮流から、参照基準の整備、そして各大学におけるポリシー、カリキュラムの整備が進んだ。
- 参照基準ーポリシーーカリキュラムー授業実践を一体のものとして見る必要がある。

『公共政策学教育の現状分析ーポリシー、カリキュラム、授業実践ー』の構成

第1部 公共政策学教育の現状

第1章 学士課程教育における公共政策学教育の背景

第2章 公共政策系学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく共通構造

第3章 公共政策系学部のカリキュラムー京都市の公共政策系学部3大学を事例にー

第2部 公共政策学教育の実践とその課題

第4章 公共政策学教育と初年次教育

第5章 公共政策学教育における実践型科目としてのPBL

第6章 公共政策学教育の資格教育プログラムー地域公共政策士プログラムー

第3部 公共政策学教育の今後に向けて

第7章 公共政策学教育とは何か

第8章 研究の総括と展望

02

本書の内容の紹介

(1) 参照基準とポリシー (DP・CP) 研究

問い

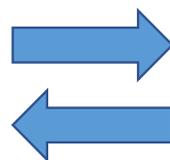
「公共政策学教育の共通構造とは何か」

<参照基準、23大学のDP・CP、DP・CPの計量テキスト分析>の往還

「公共政策学分野の参照基準」 (日本公共政策学会 2015)

参照基準の要素 (日本学術会議)

1. 各学問分野の定義、特性
2. すべての学生が身に付けるべき基本的な素養
3. 学習方法及び学習成果の評価方法に関する基本的な考え
4. 市民性の涵養をめぐる専門教育との関わり



ポリシー (DP・CP)

- 公共政策系学部23大学*のディプロマ・ポリシー及びカリキュラムポリシー

* 公共政策系学部23大学は、新川 (2015) をもとに総合政策学部、政策科学部、政策学部、地域政策学部、現代政策学部、公共政策学部、政策創造学部を対象とする。

表2 「公共政策学分野の参照基準」の核となる構造

- 1 公共政策学教育の背景
- 2 公共政策学教育の学問としての固有の特性
 - ・ 公共性のある政策を対象とする
 - ・ 学際的な方法
 - ・ 民主主義の科学, 公共性を担う市民への教育の基礎
 - ・ 公共政策学の領域: 理論と実践, 個別政策, 政策内容論, 政策過程論
- 3 公共政策学教育で身につけるべき素養
 - ・ 公共政策学の理論的知識
 - ・ 方法論
 - ・ 政策学的思考—政策問題を主体的に考える力
 - ・ 問題発見・解決
 - ・ 市民的教養
- 4 教育方法・学修方法・評価方法
 - ・ 知識の体系の学修, 学際的な分野の知識を含む
 - ・ 理論的知識の修得
 - ・ 実践的知識の修得: 実践型科目によるアクティブ・ラーニング, PBL

出所: 村上・新川(2023)

ポリシーの紹介 1 問題発見・課題解決

- 中央大学の建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」とともに、学部理念である「政策と文化の融合」を十分に理解し、国内外において、さまざまな観点から問題の発見・解決・社会現象の解明を行うことができる人材を育成します。

< 中央大学総合政策学部ディプロマ・ポリシーより一部抜粋 >

ポリシーの紹介 2 問題発見・課題解決

- 自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を**発見する能力（問題発見能力）**を修得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を**解決できる能力（問題解決能力）**。

< 関西学院大学総合政策学部ディプロマ・ポリシーより一部抜粋 >

ポリシーの紹介 3 政策的思考

- 4. 公共政策学に関する思考方法（ポリシー・マインド）を習得し、公共政策決定システムや政策体系を相対的に把握する俯瞰的な視点を有する。

<京都府立大学公共政策学部ディプロマ・ポリシーより一部抜粋>

ポリシーの紹介 4 政策的思考

- グローバル社会で活かせる実践的なコミュニケーション能力を持ち、「考動力」全般を身につけ、実際のフィールドワークを通じて、実社会の問題を考える高い思考力を育み、そこに留まらず、実際に立案、行動することができる。

< 関西大学政策創造学部ディプロマ・ポリシーより一部抜粋 >

(1) 参照基準とポリシー (DP・CP) 研究： 公共政策学教育の共通構造

表3 公共政策学教育の共通構造

共通構造の要素	DP	CP
【身につける能力】		
問題発見	17/23	15/23
課題（問題）解決	18/23	13/23
政策的思考	6/23	1/23
理解	11/23	6/23
応用	4/23	2/23
分析	14/23	11/23
評価	6/23	3/23
創造	5/23	0/23
コミュニケーション力	13/23	7/23
実践	10/23	15/23
【カリキュラム編成上の特徴】		
学際性・総合性	13/23	10/23
グローバル（国際）	9/23	13/23
地域	10/23	15/23
協働	9/23	2/23
【具体的な教育方法】		
少人数の教育	1/23	12/23
フィールドワーク	6/23	5/23
PBL	0	3/23
アクティブ・ラーニング	0	3/23

村上・新川（2023）

ポリシー (DP・CP) の共通点 (2019年3月時点)

身につける能力

- 問題発見
- 課題（問題）解決
- 政策的思考
- コミュニケーション力
- 実践

カリキュラム編成上の特徴

- 学際性・総合性
- グローバル（国際）
- 地域
- 協働

具体的な教育方法

- 少人数の教育
- フィールドワーク

(2) カリキュラム研究

研究対象：

京都市の公共政策系学部を持つ
3大学

- 京都府立大学公共政策学部公共政策学科
- 同志社大学政策学部
- 龍谷大学政策学部

研究方法：

- カリキュラム・マップ・ツリー
およびシラバスの公開情報から
科目配置の特徴と科目内容につ
いて検討

共通点と特徴（2019年度時点）：

講義科目・ 基礎	政策学の入門科目、政治、法律、 経済、統計等
講義科目・ 専門	政策学にかかわる専門的知識 (政策過程、政策評価)、憲法、 行政法、地方自治等
演習科目・ 基礎	初年次教育の演習 実践型科目の入門科目 (府立・龍)
演習科目・ 専門	演習 (ゼミナール) 実習・実践科目

- 理論と実践による学びの追求が目指されている。
- 科目の広がりや学年進行に対応した科目の順序を確認できた。

(2) カリキュラム研究：PBL科目

PBL科目

京都府立大学公共政策学部公共政策学科

- 「公共政策実習Ⅰ」「公共政策実習Ⅱ」「演習」

同志社大学政策学部

- 「演習」「フィールドリサーチ」

龍谷大学政策学部

- 「地域公共人材特別講座（PBL入門）」「伏見CBL演習Ⅰ・Ⅱ」「政策実践・探究演習」「演習」

まとめ

- 演習を共通して配置し、その中でPBLを行っている。
- PBLについては、組織的に取り組む大学と演習の中で教員によって個別に行う大学がある。
- 龍谷大学では、PBL科目の積み上げ構造がとられている。
- カリキュラムからも現場型のPBLが重要な位置を占めることが確認できる。

(3) 授業実践研究：同志社大学政策学部新川ゼミ

概要：

- 地域の中で地域の人たちとともに
に地域の問題に取り組む

フィールド：

- 京都市上京区出町地域

調査対象と方法：

- 新川ゼミ 6 期生（2015年度後期
から2017年度後期に在籍）
- ゼミ活動に関する記述式アン
ケート（2017年前期に実施）：
印象に残っていることや学んだ
ことなど

新川ゼミのスケジュール：

1. 知識習得（ゼミ論の輪読）
2. 地域に入って学ぶ
3. 政策研究交流大会で発表
4. プロジェクト提案と実施
5. 学びの言語化（ゼミ論の執筆）
6. 地域での成果発表

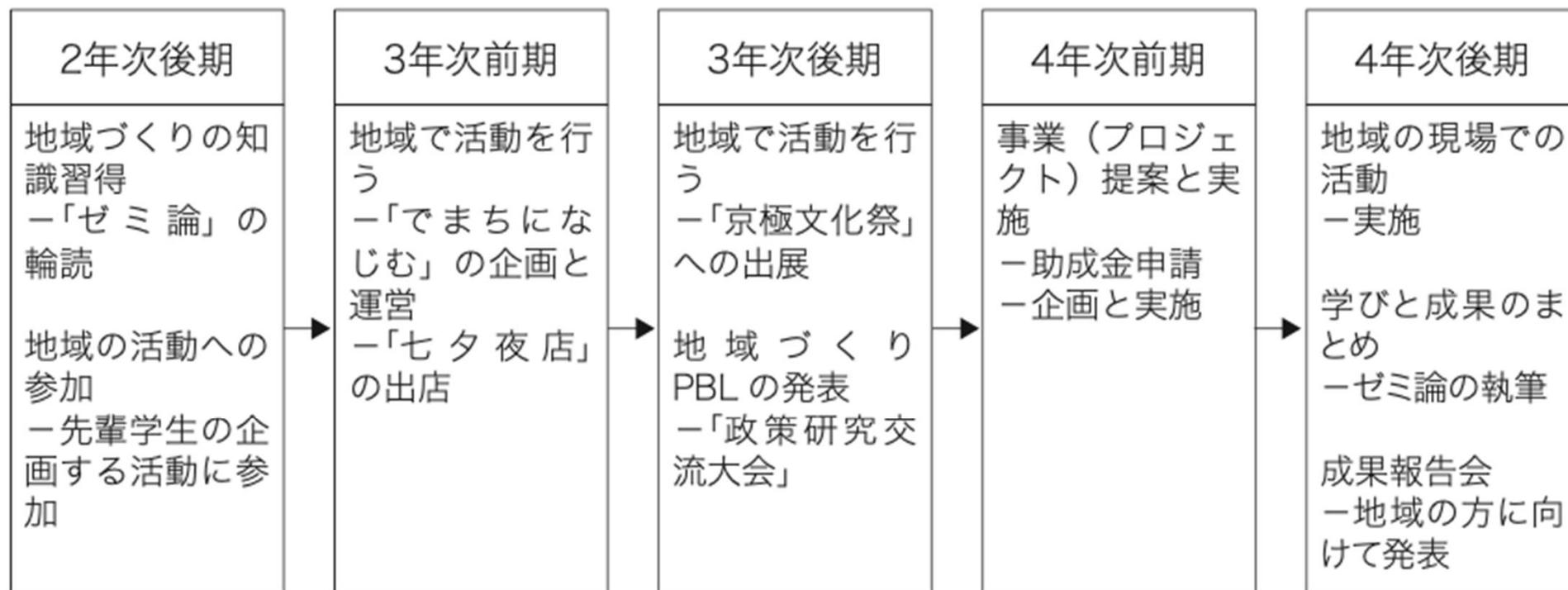


図1 同志社大学政策学部新川ゼミのスケジュール

出典 村上・新川（2023）

(3) 授業実践研究：同志社大学政策学部新川ゼミ アンケートに見られた学生の学び

- ① 地域との関係づくり：「自分たちのことを知ってもらおう」
「信頼関係が大切」 「参加することが何よりも大切」
- ② 企画から実施の過程：「積極性と主体性」 「自分から学びに
いく姿勢が大切」 「メンバー同士の信頼なども大切」
- ③ 企画から実施を支える要因：「物事が思い通りにいくことは
ほとんどなく、切り替えたり、違う発想をしたり柔軟性が大
事だと学んだ」 「何事にも楽しさを見出して取り組むことで、
意欲が湧くことを実感した。」

(4) 公共政策学教育の俯瞰？研究 公共政策学教育とは何か

- 新川達郎氏（同志社大学 名誉教授）へのインタビューをもとに作成
- 公共政策学教育のこれまでの振り返りながら、公共政策学教育全体を俯瞰する視野から公共政策学教育とは何かを考察
- 高等学校での「公共」の科目を含め、公共政策学教育と研究のこれからを展望

(5) 学びと成長研究： 公共政策学教育の学びと成長のモデル

1. 社会問題への気づきと問題意識の涵養
2. 問題意識をもとにした理論知識の習得と問題分析の技術習得
3. 理論と実践を通じた現場への理解
4. 課題解決のアイデアの提案と実践
5. 学びの言語化

0 3

おわりに

本書の意義

- 参照基準とポリシー（DP・CP）、カリキュラム、授業実践を一体的に見る視座を提起することに取り組み、公共政策学教育の特徴や課題点を抽出した。
- 参照基準とポリシー（DP・CP） ・カリキュラム、授業実践を一体的に見るという本書の研究方法は、他の学問分野の教育についての研究に応用することができる。
- 本書の研究をもとに、公共政策学教育の可能性の一端を明らかにすることができた。